

教職員自主的研究推進事業 実績報告書

研究グループ名【国語授業力アップサークル】

代表者の所属・職・氏名	加東市立滝野東小学校	連絡先	住所	加東市新町 8 8
			TEL	0795-48-2037
	FAX		0795-48-2136	
	e-mail アドレス		Takinohigashi-es@city.kato.lg.jp	

活動実績

研究テーマ	言葉の力を育てる国語科授業の創造 ～様々な書く活動を取り入れて～
1 研究の概要	
(1) 5月25日(水) 第1回学習会	組織づくり・年間活動計画
(2) 8月5日(金) 第2回学習会	指導助言 足立 勲 先生参加者数 7名 作文や日記指導について
	【作文を書く内容】 <ul style="list-style-type: none">・課題を与えて書かせる作文・自由に書かせる作文 【表現豊かな作文とは】 <ul style="list-style-type: none">・焦点化された作文・題名のつけ方、書き出し、「 」の前後の書き方が巧みな作文・気持ちや様子がよくわかる作文 【表現豊かな作文を書かせるための実践】 <ul style="list-style-type: none">・授業で理解させる実践<ol style="list-style-type: none">①表現豊かでない作文を提示して、よい作文を作り上げる授業②題名、書き出しで、表現豊かな例とよくない例を二つ提示して、比較させる授業③共同体験したことを作文に書かせる授業④表現豊かな児童作文を紹介し、どこがいいのかを考えさせる授業・評価や活動を大切にする実践<ol style="list-style-type: none">①個人に返す(シール、検印、丸、評価、教師のコメント等)②学級に返す(よい作文の紹介、文集や通信に載せる、新聞に投稿)
(3) 9月26日(月) 第3回学習会	指導助言 足立 勲 先生参加者数 8名 子どもの作文や日記を持ち寄って見せ合い、作文指導の方法について話し合った。
(4) 10月27日(木) 第4回学習会	指導助言 足立 勲 先生参加者数 9名 12月に研究授業をする授業プランに基づいて事前検討会を行った。

- (5) 11月28日(月) 第5回学習会 授業参観・研究
指導助言 足立 勲 先生参加者数 9名
単元名「よくわかるように書こう」

【授業の概要】

総合の学習で加東市遺産巡りに行った時の作文として、表現豊かでない作文を提示してよりよい作文を作り上げる授業展開であった。

事例：「すごい」という表現を作文の中に多用し、「すごい」が差したい内容を考えさせる。

【分析】

授業では、児童は「すごい」を多用している点に着目し、より良い表現に直そうと意欲的に取り組むことができていた。「すごい」に変わる表現を考える中で、表したいものの特徴やその時の自分の感情を詳しく書くと良いということを、学ぶことができた。

【成果と課題】

表現豊かでない作文を提示したことで、児童は関心をもって取り組むことができた。また、共体験している題材であったため、「すごい」に変わる多様な表現を無理なく考えることができていた。様々な表現を聞きあいながら、各々が語彙力を増やすこともできたと考える。ワークシートは、あえて発問を書かずにしている箇所があり、児童が授業展開を予想できないようにする工夫がなされていた。さらに、児童の想像を膨らませるための写真が用意されていたことも効果的であった。教室環境に至っては、作文を書くときの大事なポイントをまとめて掲示されていて、学習の振り返りや定着をさせることができていた。課題は、もう少しスモールステップをすればいいのではないかということであった。今回の学習の中で、児童は「すごい」に変わる表現において、「～してきそうな」「まるで～のような」「迫力があり」など自分の思いや考えを表現する子が多かった。しかし、「すごい」が差すそのものの特徴を詳しく書くことで、さらに良い表現になると押さえたかったが、児童には難しいようであった。

- (6) 1月23日(月) 第6回学習会 指導助言 足立 勲 先生参加者数 9名
実践交流会、次年度の研究内容の方針の話しあいを行った。

2 成果と課題

今回、言葉の力を育てるための授業を学習し、実践していく中で児童の作文や日記が少しずつ変わっていていることに成果を感じることができた。また、その後の児童の作文の評価も行うことが大切であることも分かった。

今後の課題は、作文や日記の指導の機会を定期的につくり、継続的に取り組むことである。多様な表現の仕方を学習していくことで、児童の表現力を高めさせていきたい。また、今後も教師間の実践交流を大切にしていきたい。